

6年生 「鳥獣戯画」を読む



「協同学習」 活気あふれ



発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811



NIE事務局
☎052(221)1047

中日新聞ホームページ
<http://www.chunichi.co.jp/>

白川小公表会

国語科 全学年で公開授業

岐阜県白川町の白川小学校(全校児童六十四人)は二十二日、公開授業などで日ごろの取り組みを紹介する「公表会」を開きました。

白川小では、白川町教育委員会の研究指定を受けて、二〇一四年度から、「すべての子に分かりやすい授業」を目指すユニバーサルデザインを視点とした授業づくり

に取り組んできました。今回の公表会に向けて、どの子も達成感が持てるよう、二・三人のグループで自らの考えを豊かに伝え合う「協同学習」を国語科の授業に位置づけてきました。

六年生は「鳥獣戯画」を読む、五年生は「天気を予想する」など、学年ごとに授業を公開。白川町の先生をはじめ、県内各地の学校関係者約百八十人が参観しました。



5年生 「天気を予想する」



4年生 「アップとルーズで伝える」



3年生 「すがたをかえる大豆」



2年生 「しかけカードの作り方」



1年生 「じどう車くらべ」



あすなる 「こちら あすなる放送局」



なかよし 「こちら なかよし放送局」

豊かな心と言葉 すくすく

図書館教育

仕掛けいろいろ

白川小では、「豊かな心と言葉を育てる」を目標に、本と触れ合う「図書館教育」に取り組んでいます。もっと図書館に親しんでもらいたいと、手作り書架を充実させ、季節感のある掲示を工夫するなど、常に明るい雰囲気 maintained ています。二〇一四年度には、長年にわたる取り組みにより、可茂

地区学校図書館教育賞の最優秀賞などを受賞しました。

読書活動は、主に授業を中心に取り組んでいます。特に、〇九年度からは国語科の教科書の内容と関連する本を紹介し、教科書と一緒に活用する「並行読書」の研究に取り組んできました。

一・二年度からは、他の教科にまで広げたり、新聞を活用したりしています。各教室には並行読書のコーナーを設け、児童自らが選べるようにしています。

また、図書館には、授業で活用

14年度 可茂地区で最優秀賞

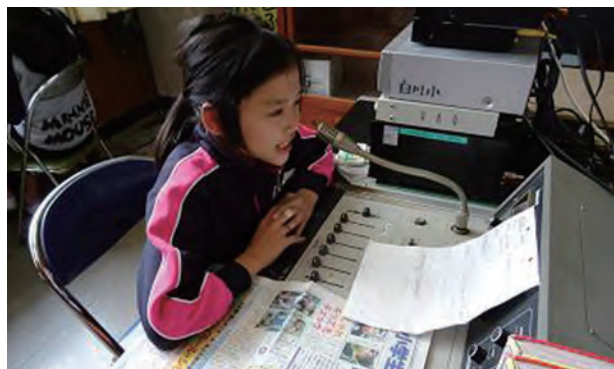


全校児童による群読の練習

した記事を紹介する新聞コーナーを設け、図書委員は昼の放送で新聞記事を紹介しています。本を読みたくなくなるきっかけづくりでは、百人一首に親しんだり、群読を楽しんだりしています。



並行読書で選んだ本を披露



昼の放送で新聞記事を紹介

て、一四年度の一人当たりの年間貸出冊数は百八十六冊でした。



百人一首を楽しむ時間も



図書館の新聞掲示コーナー



お気に入りの本を紹介する児童

とっておきの本見付けたよ

図書館教育の一環として、児童が本を紹介し合う「わくわく読書会」を続けてきました。さらに二〇一三年度からは、一歩進んだ「ビブリオバトル」も取り入れました。

年3回 ビブリオバトル

級で予選を行い、決勝は低中・高学年の三つに分かれて、年間三回実施しています。一学期のチャンプ本には、「わんぱくだんのペンギンランド」「この人を見よ！歴史をつつた人びと伝10オードリー・ヘップバーン」「ぼくらの七日間戦争」が選ばれました。どのように感動を伝えようかと考えることで、言語能力の向上にもつながったようです。



発表後の質問タイム



読み聞かせて、身乗り出して楽しむ児童たち



お年寄りも来校

「お話玉手箱」年間80人来校

児童の読書を支えるため、家庭や地域による読書活動へと広がっています。地域による読書活動「お話玉手箱」では、PTAによる読



父親たちによる紙芝居

み聞かせボランティアを行っています。保護者による読み聞かせボランティアへの参加率は、90%以上です。さらに地域の人たちにも参加していただいています。

二〇一五年度には総勢約八十人、年間十四回の「お話玉手箱」を実施します。日曜参観日には、父親による読み聞かせが白川小の伝統となっています。児童と登校した保護者は、一緒に図書館で本を借りて、親子で読書に親しんでいます。



日曜参観で図書を選ぶ保護者と児童

特別号はドラゴン号で制作



パソコン、プリンターなどを搭載した中日新聞の新聞製作・広報車。2005年8月にデビューし、中部9県の地域のイベントやNIE(教育に新聞を)活動、市長選などで特別号外を発行している。出動は15年5月末までに450回を突破した。